

支援センター名	和歌山県生涯学習ボランティアセンター (県体験活動ボランティア活動支援センター)
所在地	〒641-0051 和歌山市西高松1丁目7-38 (和歌山県立図書館文化情報センター内)
連絡先	Tel 073-436-9532 Fax 073-436-9531 ホームページ <a href="http://www.wakayama-lib.go.jp/KS/boran/Vltop.htm">http://www.wakayama-lib.go.jp/KS/boran/Vltop.htm</a>

### 事業の概要とポイント

中学校から県社会福祉協議会のボランティアセンターを通じ、総合的な学習の時間の一環として福祉施設での体験活動を実施したいと相談を受け、コーディネーターが受け入れに理解のある老人ホームを紹介して体験活動の機会が実現した。3年生が総合的な学習の時間の一環として校外体験学習を実施し、訪問先や活動内容については生徒がグループで話し合い、アポイントメントを自分たちで取るなど自主的に取り組んだ。

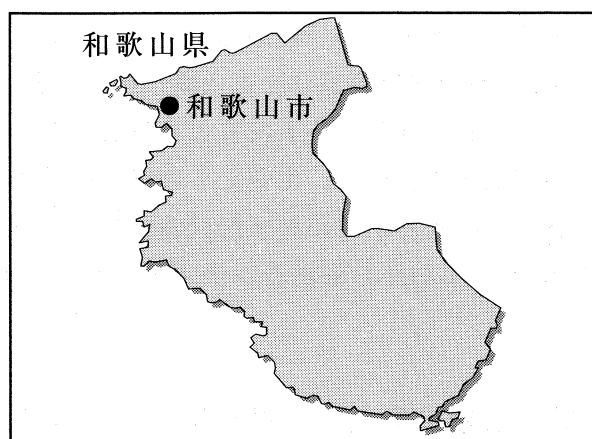
### 関係した学校・団体の名称

下津町立下津第二中学校、和歌山県社会福祉協議会（ボランティアセンター）、紀伊松風苑

### 地域の現況・特色

下津第二中学校は和歌山県海草郡下津町にあり、全校生徒298人。総合的な学習の時間に積極的に取り組んでいる。

特別養護老人ホーム紀伊松風苑は和歌山市園部の山手にあり、定員135人。体験活動やボランティアの受け入れに理解と実績があり、地域に開かれた施設である。



### 企画から活動までの経緯

10月3日 下津第二中学校から和歌山県社会福祉協議会のボランティアセンターをとおして、校外体験学習についての相談を受けた。和歌山県生涯学習ボランティアセンター（体験活動・ボランティア活動支援センター）が青少年の体験活動の支援に取り組んでいることをよく承知していた担当者が、こちらに連絡をくれたものである。

同日 中学校に電話。体験学習についてのくわしい希望を聞く。活動を希望するグループの代表生徒が自分たちの希望を伝えてくれる。

- 10月5日 近くの施設を当たったが、活動希望日の10月17日に受け入れ可能なところはない。エリアを和歌山市まで広げ、平素、体験学習やボランティア活動の受け入れに理解のある施設をあたる。その結果、紀伊松風苑が受け入れ可能と判明。
- 10月8日 中学校に連絡。担当の先生に施設名と所在地を告げ、訪問が可能か確認。生徒たちは交通機関や時刻を調べるなど訪問に向け準備を始める。
- 10月10日 中学校の担当者に依頼して体験学習についての依頼と訪問予定者及び活動希望の詳細を受入先にFAXしてもらおう。同時に校内で十分事前学習とオリエンテーションを行うよう要請。
- 10月16日 受入先の担当者に連絡。対応してくれる内容について大まかに打ち合わせ。最寄りの駅からかなり離れており、交通の便もよくないことから、駅から施設まで送迎をお願いした。
- 10月17日 体験活動実施。生徒4人が参加した。

### 事例の展開内容

生徒たちは6月から総合的な学習の時間を利用してボランティア活動について学習を深めており、10月にいよいよ校外体験学習の日を迎えた。

当日は施設の概要を担当者から聞いた後、おむつ交換、ベッドメイク、入浴、介助、食事介助などのお手伝いをした。またお年寄りたちといろいろ話もした。さらに、施設のスタッフにもお話を伺い、「初めは生活のためにこの仕事に就いたが今では天職だと思っている」「お年寄りが家族のように思え愛しくてたまらない」といった話に感動した。

後日、活動をレポートにまとめるとともに模造紙に書いてクラス、学年、全校をそれぞれ対象に発表を行った。生徒たちの感想は「他人とのコミュニケーションの大切さ、お年寄りの大切さなどがよくわかった」「お年寄りにありがとうといってもらったときはすごくうれしかった」「これからもボランティア活動に参加していきたい」といずれも前向きのものであった。

### 企画・活動する上でのポイント、留意点など

- ・体験活動受入先となる施設や社会福祉協議会、NPO団体等と、平素から連携を密にしておくことが大切である。
- ・コーディネートに当たっては、学校に事前研修をお願いした。限られた時間を有効に活用するためにも、学校及び受入先の間で十分連絡を取り合う必要がある。
- ・できるだけ生徒の希望に沿い学習の実が上がるよう、受入先に協力をお願いした。

### 評価

- ・学校では十分に準備をして体験学習につなげてくれた。生徒たちの社会性、自主性を高める取組として有意義であったと思われる。

- ・施設サイドも生徒の送迎をはじめ大変協力的であった。体験学習のメニューも充実したものであり、限られた時間の中で生徒たちは貴重な体験をすることができた。
- ・この事例ではネットワーキングと信頼関係の大切さを改めて実感した。